

私の好きな花

竹岡泰通

花菖蒲を栽培し始めて二十五年余りが過ぎた。花菖蒲の実生はしていないが、鉢栽培を続ける一方、各地の花菖蒲園を何度も見学してきた結果、私の好きな花も固まってきたように思う。それを思いつくままでに記すと、次のとおりである。

① 鶴の毛衣

江戸古花。純白。三英中輪。松平菖翁作。芯が勢いよく立ち、品格がある。葉も剣葉で葉姿もよい。

② 友鶴
肥後系。純白。三英中輪。西田一声作。芯がよく整い、気品がある。



鶴の毛衣

③ 澄心

肥後系。純白。三英中輪。平尾秀一作。芯がよく整い、気品がある花。

④ 浮寝鳥

江戸系。純白。三英大輪。平尾秀一作。芯が深くおおらかに垂れ、落ち着いた気品がある。

⑤ 白燈

純白。六英大輪。三重県津市の伊勢花菖蒲園や京都府立植物園で栽培されているが、品種の由来は分からない。

花弁は丸くおだやかに垂れ、椀形にゆつたりと咲いた姿は、品位



曙光

がある。

⑥ 曙光

伊勢系。薄いピンクに濃いピンクの細い筋がひかえ目に入る。開花二日目には花弁全体が白色に近くなる。三英中輪。富野耕治作。品位のある美花。

⑦ 九十九髪（二頁参照）

江戸古花。白地に青紫の細脈が入る。六英中輪。松平菖翁作。平咲きで芯も白く、さわやかな美花。

⑧ 夕富士（二頁参照）

肥後系。白地に淡紅の刷毛目ぼかし。六英大輪。伊藤東一作。芯が白く、上品で、嫌味がなく、飽きのこない花である。

⑨ 五月晴（二頁参照）

江戸古花。白地に底薄紅ぼかしに紅のごく細い脈が入る。六英中



美吉野

輪。芯が白く、美しい。

⑩ 姫鏡

肥後系。明るいピンク。六英中輪。平尾秀一作。花形もよく整う。芯も白く、爽やかな美花。

⑪ 故郷の春（二頁参照）

江戸系。明るいピンク地に薄い紅筋が入る。三英中輪。伊藤東一作。群植したこの花を眺めていると、素朴で暖かい雰囲気につつまれてくる。

⑫ 美吉野

伊勢系。ちりめん地の澄んだピンク。三英中輪。富野耕治作。花形がよく、葉は濃緑の剣葉で葉姿もよい。

⑬ 殊勝

肥後系。純白地に紺紫の細覆輪。六英大輪。伊藤東一作。白い部分



殊勝

へ紺紫色の染み出しが少なく、この種の覆輪花のなかで最も美しい。やや平咲き。爽やかでおおらかに咲く。

⑭ 雲井の雁（二頁参照）

肥後系。純白地に紅の細覆輪。六英大輪。押田成夫作。花形、花色ともに前者「殊勝」に似て最も美しい。

⑮ 舞扇

肥後系。明るい藤紫に鮮明な白筋が入る。六英大輪。平尾秀一作。芯も白くて美しい。

⑯ 潮流（二頁参照）

江戸系。青紫色に鮮明な白筋が入る。三英中輪。加茂花菖蒲園作出。芯も白く、色も爽やかで美しい。



舞扇

江戸古花。濃紅に白筋が入る。八重大輪。松平菖蒲翁作。平咲きで芯も白くて美しい。

⑱ 夕日瀉

江戸古花。六英中輪。紅に白小脈と底白。平咲きで中心部の底白部分が鮮やかで、あか抜けた印象の花。

⑲ 朝戸開（二頁参照）

江戸系。澄んだ濃いブルーに白筋が鮮やかに入る。三英中輪。平尾秀一作。芯も白くて美しい。

⑳ 清少納言（二頁参照）

江戸系。明るい藤紫地に細い白筋が入る。三英中輪。平尾秀一作。芯の中心は白く、整った花形と上品な花色は美しい。

以上の品種を記してみると、共通点があることに気付いた。これをま



霓裳羽衣

とめると次のとおりである。

① 花卉の芯が力強く、花卉との調和がとれていること。

② 花卉の芯の色が白く、爽やかなこと。

③ 花色が澄んで美しいこと。

④ 花と葉の姿が調和していること。

これは単に私の意見ではなく、識者が肥後花菖蒲を評価する着眼点として次のように述べておられるので、まとめてみた。

① 西田一声「熊本花菖蒲」 新花卉第六号、一九五五年タキイ種苗刊

「人は心を第一とする如く花にも花の心があり品格を第一とされる。これは何んと言っても花に持つ大切な芯の形状でこの芯は花の全体を支配するに足るどつしりと大きく三方に配置されていなければならない。」

② 東 秀光「肥後花菖蒲の鉢植え展示の方法」日本花菖蒲協会会報第二八号、二〇〇〇年刊

「芯の大きさがこの花の品種改良の着眼点で、人間におき換える」と、心で、小さい芯は小心者として嫌われた。」

③ 加茂元照 「光田義男さんの想い出」日本花菖蒲協会会報第二九号、

二〇〇一年刊

「濃い鮮やかな紫筋の入る色彩は満月会、衆芳園をはじめ、多くの肥後系育種家に嫌われ、意識的に代々抜き捨てられてきたので旧肥後系品種の中には見られませんが。白筋はあるが紫筋の花はなかったのです。肥後系では紫筋の花は「下品」として捨てるのが習いでした。」

④ 平尾秀一・加茂元照著『最新花菖蒲ハンドブック』一九八一年誠文堂新光社刊

「元来肥後系においては弁に濃色の筋をもつ花や、芯の色が花卉の色よりも濃い花は下品であるとして、甚だしく嫌われていた。」

肥後花菖蒲に限らず、江戸系・伊勢系など、花菖蒲全般を通じて、私の好きな花は共通しているように思う。

そして松平菖翁、西田一声、伊藤東一、押田成夫、平尾秀一、富野耕治各氏の、右のような花々を作出されたご努力と、花を選ぶ目の確かさに、改めて感服している。

今後も好きな品種を大切に育て、毎年、花を精一杯に咲かせて、花を觀賞する楽しみを続けていきたい。